

特殊災害（NBC災害）対応車両

特殊災害対策車（HCS1）



放射性物質・化学剤・生物剤のNBC災害発生時に対応するため、車内陽圧式空気清浄装置を装備し、毒劇物等の車両内部への流入防止機能を有します。また、鉛板及び水槽でボディーを覆うことにより放射線防護機能を有し、検知型遠隔探査ロボット、監視カメラ、外付けの放射能測定器を装備するとともに、外部空気を社内の測定機に取り込み安全な車内にて分析することができます。

特殊災害対策車除染車（HCS2）



NBC災害現場での除染活動に対応するために、脱衣兼シャワー室、着衣室、制御室兼資器材収納室及び折りたたみ可能な昇降式の担架搬送用シャワー室を設け、シャワー設備、給湯設備、発電設備、テント設備、昇降式照明装置、給排水槽等を装備した車両です。

特殊災害対策車偵察車（HCS3）



全輪駆動シャシーを採用し、車内陽圧式空気浄化装置、外付けの放射能測定器・生物剤検知器・化学剤検知器、監視カメラ、超音波風向風速計を装備しています。空気浄化装置は取り入れた車外の空気に対して $0.3\mu\text{m}$ の粉塵を99.99パーセント除去でき、測定データを車内で把握することができ、悪路等の災害現場において安全な車内にて偵察することができます。

大型資材搬送車（HST）



災害内容に対応した資器材を載せた大型のコンテナ等を選択して搬送するため、コンテナ着脱装置を装備しています。コンテナの種類には、一般救助コンテナ、危険物火災用コンテナ、林野火災用コンテナ、運搬車（平ボデーコンテナ）、ロボット搬送用コンテナがあり、一般救助コンテナには膨張テント、非常用担架、非常用毛布を積載し、現場救護所用資器材として活用できます。

特殊救急車（HAS）



大規模災害等で多数の傷病者が発生した場合に災害現場で応急救護所として、また、多数傷病者の搬送等に活用することができます。さらに救護室を拡張することにより、最大床面積40㎡のベッド数8床を有する現場救護所として活用することも可能です。

東京消防庁化学機動中隊発足について

1983年3月宮崎沖電気工場において、半導体製造に不可欠なモノシランガス漏えい事故が発生し、従業員1名が死亡。海外においても1984年インドのボパールにあるユニオンカーバイド社の殺虫剤用イソシアン酸メチルの大量漏えい事故により、死者3300人以上、被害者約20万人が発生しました。また、都内においても時期を同じくして、フッ化水素の漏えい事故などが多発し、これらが契機となって、平成2年（1990年）大森消防署、本郷消防署に化学機動中隊が発足し、その後都内の災害に15分以内に到着できるように計10隊が発足されました。

平成14年には高度な専門能力を有した隊員と特殊な装備・資器材等で編成されたNBC災害対応専門部隊【第三消防方面本部救助機動部隊】が発足、平成25年に【第九消防方面本部救助機動部隊】が発足されました。現在は9消防署、2機動部隊の計11隊が活動しています。